

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	自立支援、介護予防又は重度化防止の推進
------	---------------------

現状と課題

認定率は全国及び愛知県と比較し低い値である一方、調査の結果、認定を受けていない人の2人に1人は「フレイル」状態や3人に1人は5種類以上の薬を内服している状況であった。医療・介護連携不足による対象者把握等の遅れが、健康状態維持（高い「フレイル」割合）に影響している要因の1つと考えられるため、早期に対象者把握等を行えるよう、医療・介護連携の強化が必要と考えられる。

第7期における具体的な取組

- ・生活支援体制整備
- ・在宅医療、介護連携ネットワークの構築

目標（事業内容、指標等）

- ・生活支援体制整備事業に係る協議体開催
- ・在宅医療、介護連携ネットワークを活用した会議の開催
- ・ニーズ調査等にて以下の項目に係る目標値達成

項目	分子	分母	実績値 (平成29年度)	目標値 (平成32年度)
介護・介助が必要な未認定者率	誰かの介護・介助が必要な人	対象者全員	15.9%	13%未満
15分以上歩くことができない率	15分以上歩くことができない人	対象者全員	21%	21%未満
一人で外出していない人	1人で外出していない人	対象者全員	7%	5%未満
介護・介助が必要で1人で外出していない人	1人で外出していない人	介護・介助が必要な方	50%	25%未満
転倒率			29%	25%未満
転倒歴があり、かつ外出回数が減っている率	転倒歴があり、かつ外出回数が減っている人	対象者全員	13%	10%未満
転倒不安があり、かつ外出回数が減っている率	転倒不安があり、かつ外出回数が減っている人	対象者全員	21%	20%未満
15分以上歩行可能なのに外出が週1回未満の率	15分以上歩行可能なのに外出が週1回未満の人	15分以上歩行可能な人	2%	2%未満
社会活動なし	ボランティア、スポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループ、学習・教育サークル、老人クラブ、町内会、自治会、収入のある仕事のいずれに	対象者全員	50%	25%未満

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・協議体・会議は定期的に行っているか。
 - ・ニーズ調査等にて目標値に向け推移しているか。

取組と目標に対する自己評価シート

年度	平成30年度
----	--------

前期（中間見直し）

実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援体制整備協議体の開催（1回） 民生委員、老人クラブ、ボランティア団体等による情報共有の実施 ・地域包括ケアシステム推進協議会の開催（1回） 医療機関、大学、居宅介護支援事業所等による情報共有 ・多職種連携研修会（1回） 医療機関、居宅介護支援事業所等による情報共有ツール説明会の開催
自己評価結果【○】
<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援体制整備協議体の開催（平成29年度）2回→（平成30年9月末）1回※全2回予定 ・地域包括ケアシステム推進協議会の開催（平成29年度）2回→（平成30年9月末）1回※全2回予定 ・多職種連携研修会（平成29年度）0回→（平成30年9月末）1回
課題と対応策
<p>被保険者のかかりつけ医療機関を調査した結果、本町の医療圏域外の受診割合が高いため、圏域外医療機関への情報連携ネットワーク登録を促進する必要がある。</p>

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援体制整備協議体の開催（2回） 民生委員、老人クラブ、ボランティア団体等による情報共有の実施 ・地域包括ケアシステム推進協議会の開催（2回） 医療機関、大学、居宅介護支援事業所等による情報共有 ・多職種連携研修会（1回） 医療機関、居宅介護支援事業所等による情報共有ツール説明会の開催
自己評価結果【○】
<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援体制整備協議体の開催（平成29年度）2回→（平成30年度）2回※全2回予定 ・地域包括ケアシステム推進協議会の開催（平成29年度）2回→（平成30年度）2回※全2回予定 ・多職種連携研修会（平成29年度）0回→（平成30年度）1回
課題と対応策
<p>被保険者のかかりつけ医療機関を調査した結果、本町の医療圏域外の受診割合が高いため、圏域外医療機関への情報連携ネットワーク登録及び同医療機関のソーシャルワーカーとの連携を促進する必要があるため、在宅医療サポートセンターに働きかけ、連携促進に繋げる。</p>